

<研究課題代表者>

財団法人日本モンキーセンター 所長 西田 利貞

<研究参画者の所属機関>

日本モンキーセンター、林原生物化学研究所、京都大学、明治学院大学

<研究の概要(背景、目的、内容)>

大型類人猿は、旧大陸熱帯雨林エコシステムのキーストーン種であり、彼らの保護は多くの野生生物の保護につながる。同時に、彼らはヒトと最も近縁な動物であり、ヒトが地球環境問題に立ちむかう際に参照すべきヒトの生物学的背景を教えてくれる。近年、増大する人間活動によって大型類人猿は激減し、絶滅する恐れが高い。そこで、アジア、アフリカの7調査地において、大型類人猿の絶滅を回避するため、大型類人猿の分布と密度、地域住民による森林利用の実態と環境変動、大型類人猿の疾病と人間関係が大型類人猿の健康状態に与える影響、植林による森林再生と分断化された生息地の連結、エコツーリズムとコミュニティ・コンサベーションによる環境保全に関する研究を行い、GRASP(大型類人猿保全計画)を推進するUNEP(国連環境計画)とUNESCO(国連教育科学文化機関)に対し、ヒトと大型類人猿の共存にむけた総合的保全計画の提案を行う。

<研究終了時の達成目標>

- 1) 大型類人猿の生息実態に基づく、大型類人猿の効果的かつ具体的な保全方針を提言する。
- 2) 現地主導による実践的保護活動を確立し、推進する。
- 3) 大型類人猿生息地域の生態学的情報を得、それらの持続可能な利用方法を見いだす。
- 4) 自然保護活動に関連する現地経済効果の可能性とその方法論を提案する。
- 5) 感染症の実態とその啓蒙、および疾病予防方法の構築に向けた基礎資料を得る。
- 6) 森林再生における客観的評価システムを確立する。
- 7) 現地環境教育における効果的な方法論を確立し、その普及を実践する。
- 8) 大型類人猿とその保全に関する法整備のための提言をする。
- 9) 大型類人猿生息地域における、将来的に継続可能な情報収集体制を確立する。

<平成18年度実績(83,473千円)>

- ・広域調査による類人猿の分布域確定の調査と、重点地域における密度センサスを行った。
- ・地域住民の生活と森林資源利用を調べるため、対象家族を選定し記録の指導を行い、モニタリングした。植生と動物相を調べるためのトランセクトの設定しモニタリングした。
- ・大型類人猿の糞を収集し、寄生虫卵の検出率、ストレスホルモンを調べた。人間と大型類人猿の接触の実態について、エコツーリズムや人獣共通感染症の現状を調べた。
- ・ギニアのボッソウ地区、ウガンダのカリンズ森林においてヘキサチューブによる植林を進めた。有効性を調べるため、ヘキサチューブ内の植物の残存率を調査した。
- ・地域住民の生活実態について、住民の意識調査と人口圧力の社会学的調査を開始し、潜在的な森林開発圧力を評価した。持続可能な森林利用プログラムとしてのエコツーリズムの有効性と、環境への影響を調査した。

<平成19年度実績(79,299千円)>

- ・大型類人猿の分布及び生息状況に関する調査を継続した。収集したGPSデータ等の入力と分析を行った。
- ・地域住民の生活と森林資源利用のモニタリングと動植物相のモニタリングを継続し、収集したデータの入力をすすめた。
- ・糞尿から保有する病原体、保有抗体の分析を行い、地域ごとの感染症の種類と実態を明らかにした。ストレスホルモンの分析により、人づけされた類人猿個体群に対するストレスの程度を明らかにした。
- ・植林事業研究の推進とともに、チューブの残存率や、植栽種ごとの成長率、生存率などを調査した。
- ・前年の調査を継続し、類人猿生息地を結ぶ緩衝地域の設定や新たな国立公園提案の可能性を探った。また、それぞれの地域の実情にあわせた有効な地域開発支援の手法を研究した。

<平成20年度計画(79,099千円)>

- ・各地域ごとに植生比率、密猟頻度、伐採頻度を評価し、類人猿の生息を制限する自然的および人為的要因を明らかにし、持続可能な保全計画を構築・提案する。
- ・モニタリングを継続する。収集したデータの入力と分析を進め、調査地間比較のためのワークショップを開き、地域住民の実情にあわせた保護政策のあり方を提言する。
- ・周辺住民の活動を聞き取り調査等によって調べ、ヒトー類人猿間の感染症の伝播の機会を明らかにする。
- ・毎木調査を継続し、森林再生のアセスメント手法を確立する。環境教育授業の一環としての植林事業、地域住民を対象とした環境教育などを通じて、地域社会の持続的発展と調和した植林活動の確立をめざす。
- ・エコツーリズムの経済的、社会的な効果を明らかにし、過年度までの研究結果と総合し、地域の実情に根ざした具体的な保護施策を立案し実施を促す。

<国外の協力・連携機関、研究計画名>

国際連合教育科学文化機関、国際連合環境計画、Virginia Polytechnic Institute and State University(米国)、フランスビル医科学研究所(ガボン)

研究参画者一覧（平成20年度）

研究課題名	F-061 大型類人猿の絶滅回避のための自然・社会環境に関する研究
＜研究体制・組織＞ 研究代表者 西田 利貞 財団法人日本モンキーセンター 所長（67才） ○ (1) 大型類人猿の分布と密度に関する研究 伊谷 原一 林原生物化学研究所類人猿研究センター 所長 ○ (2) 地域住民による森林利用の実態と環境変動についての研究 勝俣 誠 明治学院大学 教授 ◎ (3) 大型類人猿の疾病と人間活動が大型類人猿の健康状態に与える影響についての研究 西田 利貞 日本モンキーセンター 所長 伊藤 詞子 日本モンキーセンター リサーチフェロー ○ (4) 植林による森林再生と分断化された生息地の再連結についての研究 松沢 哲郎 京都大学霊長類研究所認知言語部門 教授 橋本 千絵 京都大学霊長類研究所社会生態部門 助教 ○ (5) エコツアーリズムとコミュニティ・コンサベーションによる環境保全の研究 山極 寿一 京都大学大学院理学研究科 教授 中村 美知夫 京都大学野生動物研究センター 准教授	

課題名:大型類人猿の絶滅回避のための自然・社会環境に関する研究

課題番号:F-061

